

平成28年度 学校評価実施報告書

幼稚園名(京都市立乾隆幼稚園)

2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
	評価項目	(1回目評価を踏まえた)年度末までの取組	(取組結果を検証する)アンケート項目・各種指標
確かな学力・豊かな心・健やかな体	保育の改善・充実	主体的に生活をすすめるための指導については、改めて一人一人への丁寧な見取り、かわりについて全教職員で共通理解していきたい。	アンケート項目「楽しんで幼稚園に通っていますか」「教職員は子ども一人一人に温かいかわりをしていますか」
	幼小接続の視点	計画的な交流の取組はすすめてきたが、交流の検証を行い、子どもの育ちにどう繋がるかを丁寧に計画し取組んでいきたい。	アンケート項目「地域との連携を生かした体験が保育に取り入れられているか」A評価70%B評価10%
	心と体・生活習慣	・引き続き自らすすんで体を動かして遊ぼうとする子どもの育成に向けた指導、環境の工夫 ・一人一人に応じた丁寧な指導	アンケート項目「お子さんは幼稚園生活を通して心身がたくましくなってきたか」A評価74%B評価26% 「お子さんは自分のことは自分でしようとしていますか」
	信頼関係・折り合い・自己肯定感	・教師や友達との信頼関係の定着に向けた指導に努める ・人とかかわりのエピソードから成長や課題を探る。	アンケート項目「お子さんは家族、先生、友達など周りの人に親しみをもちかかわっていますか」
園独自の項目	子育て支援の推進 教育相談さくらんぼ組	・教育相談月たよりの全地域町内への配布の徹底 ・教育相談の保育内容の見直しと工夫 ・地域子育て支援との連携	・教育相談、園庭開放の参加人数 ・保護者の声、感想 ・入園にかかわる情報
	預かり保育の推進	・引き続き指導計画を見直しながら保育内容の工夫に努める ・不安定になり易い子どもは担任と連携を取りながら安定を図る。	アンケート項目「お子さんは楽しんで預かり保育に参加していますか」
	情報発信の充実	ほぼ毎日の更新は保護者や家族、遠く離れた祖父母などからも喜んでもらえた。今後も地域の刊行誌やHPで情報発信に努め、内容も検討する。	アンケート項目「幼稚園より(子どもの姿)やHPなどで様子がわかるか」A評価56%B評価41%C評価3%



・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年2月24日
	評価者・組織	教職員
アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	分析を踏まえた改善策
アンケート結果「楽しんで通っている」A評価85%B評価15%「教職員が連携してかかわっているか」A評価85%B評価15%	全教職員で「チーム保育」をすすめてきたことは評価につながり、保護者の実感、子どもの成長に繋がったと考える。	今後も丁寧な一人一人の内面を全教職員で共通理解し、チーム保育の取組をする。教員の意識改革を更に進める。
「地域との連携を生かした体験が保育に取り入れられているか」A評価70%B評価30%	小学校への積極的な働きかけにより小学校からの呼びかけや交流機会も増えた。1年担任との話し合いを多くもてた。	小学校の先生の幼小交流の重要性の認識に変容がみられたが、担任の意識に左右されず学校全体として位置づくよう、次年度も前向きに働きかけていく。
「幼稚園生活を通して心身がたくましくなってきたか」A評価74%B評価26% 「環境が整えられているか」A評価70%B評価10%	1年間を通し、成長の様子が伺えた。子どもの主体性を引き出すための環境の工夫は園内研修を通し、教員の意識改革がみられた。	発達段階をしっかりと踏まえ、次年度に向けての課題を明確化しながら引き続き取り組むと共に保護者への啓発をすすめる。
「周りに親しみをもちて挨拶しているか」A評価51%B評価49%	ほぼ全員の子どもたちが友達、教職員、地域の方々などへの挨拶は定着してきた。後期は前期よりも高い評価をいただいた。	子どもたちが今後も信頼関係を土台として人とのかかわる力や人間関係づくりを目指した取組や環境を工夫していきたい。
2歳児未就園児の入園割合はほぼ100% 登録者は継続して通園しているが、減少傾向である	保護者の口コミの力が大きい。実際の感想が聞けて説得力がある。1歳未満や1歳児から丁寧に大切にかかわることで定着させていく。	全教職員が子育て支援者であるという自覚をもち、1学期から人間関係を築くようにしていく。
「楽しんで預かり保育に参加しているか」A評価64%B評価26%C評価10% 初めてのアンケート項目で90%楽しんで参加	ほぼ全員が楽しんで参加しているが、預かり保育の取組が地域保護者に周知されていないため、取組を進めたが十分とは言えない。	預かり保育があることで公立幼稚園も幼稚園選びの選択肢に入るように保護者ニーズを明らかにしながら取組をすすめる。
「幼稚園より(子どもの姿)やHPなどで様子がわかるか」A評価56%B評価41%C評価3%	内容の改善に努めてきたが、評価はあまり変わっていない。行事の様子や子どもの姿の記事が殆どであるが、工夫が難しかった。	子どもの姿を通して保育者の思いや願いなど、活動の報告に終わらず、一歩踏み込んだ記事で、教育理解に繋がるよう工夫していきたい。



学校関係者評価	
評価日	平成29年3月7日
評価者(いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
生活発表会を参観し、1年間の成長の姿に感動した。教育を受け子どもが育つということを保護者の時とまた違う客観的な立場で観れ、たいへん良かった。	全教職員でチーム保育を進めていって欲しい。
今年度は様々な場面で小学校との交流がなされたのではないと思う。子どもたちが不安をもたず就学できることは親としても有難い。	子どもたちにとって成長に繋がる連携に向け頑張ってもらいたい。地域も子どもたちのために協力していきたい。
保護者は子どもと共に親も育てて欲しいという希望をもち、入園している。子どもの見方や子育てについて、在園中に学びたいものである。	園での先生のかかわりや様々な場で子育てのヒントや答えがたくさんある。親同士も子どもと共にたくましくなっていきたい。
地域では朝の安全見守りで、子どもたちの安全と触れ合いに力を注いでいる。子どもたちが親しみをもちてくれて嬉しい。	今後も子どもたちとのかかわりがより深められるよう、様々な機会に積極的に参加していきたい。
全教職員が子育て支援者の自覚をもち、かかわってもらえることは親にとっても有難く、園の良さが広まる。	これからも子育て支援に力を入れて欲しい。乾隆幼稚園にくれば子育てが楽しくなるように親を支えて欲しい。園児獲得にもつながっていく。
預かり保育を18時までしてもらって有難い。朝の預かりがあればもっと有難いが管理職のご苦労が心配だ。	働かなければならない親が多いから保育園に行くしかない。幼稚園が選択肢に入らないわけではないのだが難しい。絵本ママを子どものために今後も張ってほしい。
ホームページは色々気遣うことも多く、園のご苦労を感じている。	楽しい幼稚園の雰囲気を出していって欲しい。入園に繋がればと願う。

3 総括・次年度の課題

- ・保護者や地域と共に公立幼稚園が歩んでいくための、「地域に根差した園の在り方」について引き続き、具体的な方策を考えていきたい。
- ・幼小接続は公立幼稚園の重要な役割であることを踏まえ、今後も小学校の先生方との教育の相互理解に努め、子どもたちが安心安定感をもって就学できるよう、努力していきたい。